

【介護から自分を知る⑧】

東海社会福祉科学研究所

大北 秀雄

6 介護の現状⑥

高齢者家族、一人生活の高齢者（以下「高齢者家族等」という）の説明をしましたので、今回はその子どもを含めた家族（以下「子ども等」という）の対応について説明したいと思います。

高齢者家族等の一人が何かの病気になると生活リズムが直ぐに変化してしまいますし、何か不安なことが起こった場合、また感じることもある場合は、そのこと以外のことも含めて、いろんなことを想定し悲観的になりやすいところがあります。

子ども等にとっては、高齢者家族等の一人に何か変化があれば、それに対応するいろんな援助を考える必要が出てきますし、しなければならぬことが発生します。子ども等にとっても生活がありますし、生活に余裕があればまだ救われる部分もあると思いますが、それでもいろんなことに対する神経を使いますし、生活リズムが変わる場合が多いことも事実です。

事前にいろんな想定をして話し合いを行うことが大切ですが、個人の考え方はいろいろあります。また、高齢者家族等に対する援助を前提にした内容を話し合うことは、非常に神経質になりやすいもので、皆が本音で話すことの難しさが予想されます。どんな理由があっても話し合うことが必要な内容であり、将来のことを思えば当然のことです。しかし、現実には曖昧な内容の話し合いしかされていないことが多いようです。また、子ども等の全員が参加して話し合いをすることの困難な現実があります。

高齢者家族等の住んでいる場所の近くに全員の子ども等が生活をしているならば、話し合う機会を持つことの可能性が大ですが、現実には子ども 2 人の場合が多く、どちらかが県外で住んでいることも多いようです。また、どちらも県外の場合であったり、県内であっても 1 時間以上要する場所での生活であったりしています。

多くの場合は、高齢者の年齢が高く、その子ども等の年齢も高くなってきていることも現実です。このような条件のもとで誰がどのように援助するのかの役割分担を決めることの難しさもあります。また、援助の期間によっても変化が伴ってくることも必然ですから、一段と難しくなっています。

現在の社会状況は、特に金銭面において苦労が予測されますし、人的援助においても少数の家族が支えていくこととなりますからいろいろな問題が発生します。

人的援助は、子ども等にとっても限度があります。厳しい話ですが、援助に

あたって誰かの犠牲を必要とすることもあり、その中で大変苦しむことがあることも事実です。また、悪い結果が報道されていることも現実ですので真剣に考える必要があります。

このような条件かで、施設入所を直ぐに考えてしまいますが、現実には待機者が多くあり希望したら直ぐに入所できるとはいえないのも現状ですし、病院での入院期間についても一定の期間しか入院できないことも現実です。有料老人ホーム、高齢者専用賃貸住宅に入るには、金銭の問題がありますので注意することが必要ですし、介護サービスの内容が施設によって異なることも了知する必要があります。

高齢者家族等に対する対処については、子ども等の将来の姿でもありますから、真剣に将来に向けた話し合いをし、本音の内容で変化にも対応できる計画を持つことが必要です。